

## 1. 首都高速道路の生い立ち

- 昭和37年12月 1号線京橋～芝浦間の約4.5kmが開通、昭和39年10月 東京オリンピック開幕までに合計約33kmが開通。
- その後、放射路線の整備、都市間高速道路との接続、中央環状線等のネットワーク整備を経て、平成24年12月首都高速開通50周年を迎え、現在、約300kmが供用中。

■昭和30年代の都心部交差点



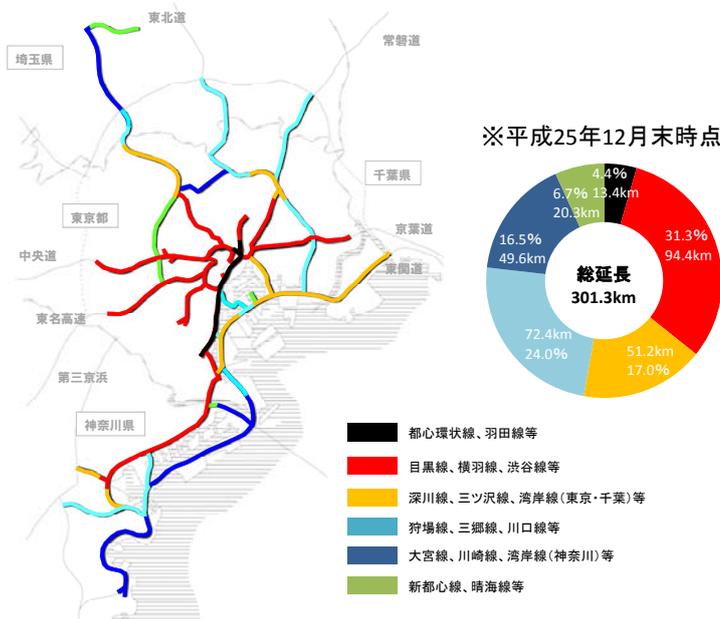
■首都高速道路ネットワーク



## 2. 首都高速道路構造物の現状

- 総延長約300kmのうち、経過年数が50年を超える路線は、現時点で全体の4%(約13km)、10年後には約3割(約110km)まで増大。
- 1日の平均利用交通量は約100万台、大型車の交通量は、東京23区内の一般道の約5倍となっている。

■開通からの経過年数比率



■大型車交通量比較



出典:平成22年度道路交通センサスより  
 ・首都高速道路における大型車断面交通量の平均(平日)  
 ・東京23区内の一般道(都道・区道)における大型車断面交通量の平均(平日)  
 ・日本全国の高速自動車国道における大型車断面交通量の平均(平日)  
 (上記大型車断面交通量の平均(平日)は、平日24時間大型車走行台キロの総計を総延長で除した値)

# 「首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究委員会」の概要

## ■設立趣旨

- ・過酷な使用状況にある首都高速道路構造物の損傷は年々増加する一方で、そのための補修費用は将来、飛躍的に増大していくことが予想される。
- ・増大する将来の補修費用を低減し、首都高速道路ネットワークを長期にわたって健全に保つためには、現在の償還計画には含まれていない大規模修繕、大規模更新を実施することが必要である。
- ・首都高速道路構造物の大規模更新のあり方を検討するため、調査研究委員会を設置した。

## ■委員名簿

委員長	涌井 史郎	東京都市大学環境情報学部 教授
委員	秋池 玲子	ポストンコンサルティンググループパートナー&マネージング・ディレクター
	石田 東生	筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授
	勢山 廣直	(独)日本高速道路保有・債務返済機構 理事長
	藤野 陽三	東京大学大学院工学系研究科 教授
	前川 宏一	東京大学大学院工学系研究科 教授
	真下 英人	(独)土木研究所道路技術研究グループ グループ長
	三木 千壽	東京都市大学総合研究所 教授

# 首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究委員会提言要旨

大規模更新の実施区間は、1号羽田線  
東品川棧橋・鮫洲埋立部、都心環状線  
銀座～新富町(築地川区間)等の約16km

今後、詳細な調査を行った上で大規模  
更新もしくは大規模修繕を決定する区間  
は、約4km

大規模修繕の実施区間は、約28km

今回、大規模更新、大規模修繕の対象  
とならなかった区間における当面の対応と  
して、構造物の新たな損傷の発生・進行  
の抑制が必要。

